No.6	踏み出し		
氏名	森口　日菜	経営学部	4回生

1．出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。

テーマ：自己理解とキャリア選択に特化した就活生支援サービス「Pyxis」（※現在はPyxiruに名称変更しております。）
目標：就活生が自分自身の今後のキャリアについて深く考え、進路選択をする上での「軸」を持てるようにサポートをすること。

2．上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。

①2020年4月～6月
6月から本格的に準備を開始し、サービスの運用方法の構築や協力者の確保を進める。
②2020年7月～8月
4人の立命館生と共に、立命館学生の「自己理解」をサポートする「自己理解面談プログラム」を考案・開発。
③2020年9月
Syumirun!さん、入試広報学生スタッフさん、IROHAさん、LSさんに広報協力をして頂き、「自己理解面談プログラム」を立命館生向けに提供開始。面談プログラム受講者数20名を突破。SNS（Instagram, Twitter）を通して就活に役立つ情報発信を開始。
④2020年10月
プログラムをより多くの学生に活用してもらうため、新メンターの採用活動を開始。プログラム終了後学生向けに「面接対策」ワークショップを企画。
⑤2020年11月～12月
新メンター7名が合流し、面談プログラム受講者数は50名を突破。立命館生の就職活動をよりサポートするため新企画を始動。
⑥2021年1月～2月
面談プログラム終了生が30名を突破。業界分析をサポートする「業界分析FMT」を作成・提供開始。SNSで発信している就活情報をラジオにて配信開始。自己理解面談プログラムを終えた学生向けに「面接対策」ワークショップを開催。
※2/28を持って正式にはサービスを一時休止いたします。
3/18にて「将来像をより具体的に考えるワークショップ」を開催予定です。

5．今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。

今年度の活動を通して2つのことを確信することができました。1つは、私の中で「人のキャリアに関わる支援を行うことで、一人一人の個性や能力が最大限活かされる社会をつくっていきたい」という思いが本物になったことです。1年間の活動を通して様々なことに葛藤しましたが、その中でもこの想いだけは最初から最後まで変わらず持ち続けていられたことで、この先も人のキャリアや自己理解に関わる分野で活動していきたいと強く感じるようになりました。もう1つは、自己理解というものが持つ可能性です。スムーズな進路選択を行えるだけでなく、自己肯定感を高めたり、マイナスだと感じていた過去の経験をプラスに捉えることができたり、自分自身のアイデンティティを再構築することができたり、、など、自己理解には人が前向きになれる力があると感じました。これら二つのことから、今年度の活動を基礎とし、次年度以降は長期間存続させることができる形で再度「自己理解に主軸をおいたサービス」を開発・運用していくことに決めました。活動メンバーや次年度就職の兼ね合いもあり、1年間はサービスを休止させる運びとなりますが、今年度で学び取った様々なことを土台としより良いサービスを作るために試行錯誤していきたいと考えております。

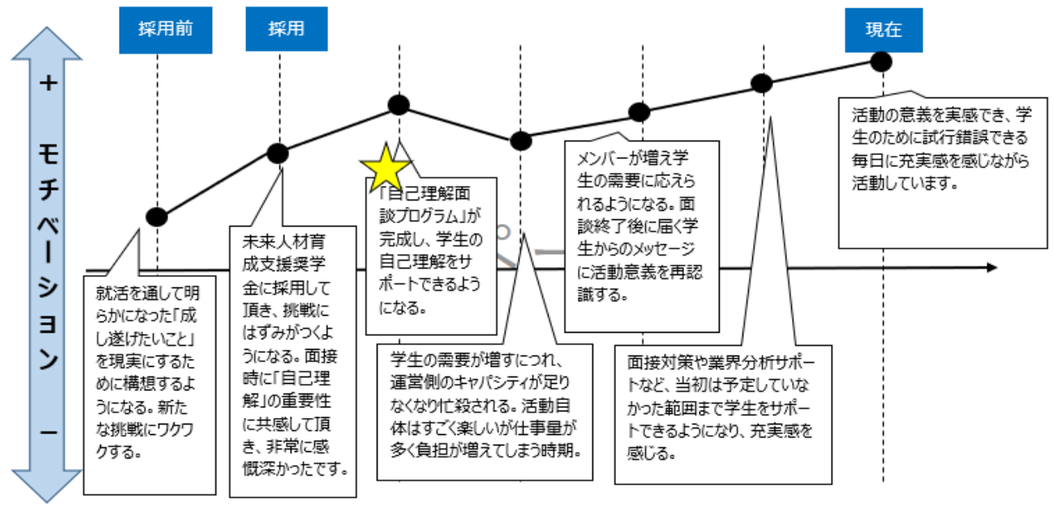
6．今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。

今年度の取り組みは、私の人生においてもとても重要な経験となりました。次年度以降は「キャリア」や「組織開発」の分野で事業展開を行う企業へ就職をするのですが、その際に自分自身が何をやりたいのか、どんな能力を活かせるのか、を明確にすることができました。「自己理解」や「キャリア」については活動中も含め、本やセミナーを通して日々学習しているため、就職後も引き続き学びを深め、いつか多くの人にとって「自己理解」が身近なものになり一人でも多くの人が人生を主体的に前向きに歩める社会をつくっていければと考えております。小さな勇気から始まった今年度の活動ではありましたが、このような機会を頂けたこと、誠に感謝しております。ありがとうございます。

7．今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。

今年度の活動を通して、多くの就活生や大学生（就活を終えた学生も含めて）から「Pyxiruに救われた」という言葉をかけて頂くことができました。常にサービスの受け手を優先し試行錯誤を重ねてきた一年間だったため、その活動の一つ一つが学生の自己理解をサポートし、強いては一人一人に合った進路選択を行うための手助けになったと感じております。今年度の活動を通して社会に与えることができた影響は微々たるものではございますが、今後はより多くの方を救えるようなサービスを本格的に開発していきたいと考えております。

3．個人の成長の軌跡3-1．取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください．



3-2．グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。

全く何もない状態から、「大学生の自己理解」を促進させるプログラムを考案する過程からたくさんの学びを得ることができました。活動の中では、「学生が自己理解をできないのはなぜか？」という課題特定から始め、そこで出てきた「やり方がわからない」「一人だと終わりが見えず続かない」という課題に対して「10回の面談を通して自己理解に伴走する」というプログラム趣旨が誕生しました。その過程の中で、課題特定の重要性と、サービスの受け手が本当に求めていることは何か？ということを徹底的に考えることの重要性を学べました。また、共に活動するメンバーと互いの経験談を共有し試行錯誤したことで、一人では辿り着けない解決方法を編み出すことができ、チームメンバーそれぞれの良さを活かし合いながら共通の目標に向けて物事を進める面白さと意義を実感することができました。また、学生との面談を通して自分自身の自己理解も促進することができ、「個々が持つ魅力」を深くまで理解し受け入れられるようになりました。

3-3．”今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？

経営学部での勉強を通して、ニーズを掘り起こす重要性を知り、チームのマネジメント方法を身につけることができていたのではないかと思います。取り組みの中で要所要所に大学で学んだことを活かし、試行錯誤することができたと考えています。

4．本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか５段階で評価してください。（該当ナンバーに○）
また、併せて評価の理由も書いてください。 評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】

① 目標の達成度　5

＜理由＞
当初予定していた「大学生の自己理解をサポートする」という目的を達成することができたためです。実際に、50名を超える立命館学生の自己理解をサポートすることができ「自分のことを深くまで理解し好きになれた！」や「自分の良さを知り自信を持てるようになった！」など数多くの前向きなメッセージを頂き、満足度としても9.6/10という高い成果を上げることができたためです。

② 計画の達成度　5

＜理由＞
プログラムを考え、学生へのサポートを始めるまで計画通りに進めることができたためです。また、良い意味で計画になかったメンバー増員や複数ワークショップの企画/運営、業界分析やラジオ配信を行うことができたためです。

③ 取り組みを通じた自己成長　5

＜理由＞
「人と向き合う」ことの価値を心から実感することができ、多様な人の価値観に触れたことで「みんな違ってみんな良い」という言葉の意味を理解することができました。また、サポートの範囲が拡大するに従い共に活動するメンバーが増えていく中で、組織の維持・発展について試行錯誤することができ大きな成長実感を得ることができました。

10．今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。

① 身についた力

ストレス・コントロール

② ①で記述した力について具体的に説明してください

これまでも困難を前向きに捉え乗り越えられる性格ではありましたが、今年度の活動を通して立ち直りや切り替えがとても早くなったと感じています。行き詰まった時やうまくいかない時も、くよくよ悩まず「今できることは何か」を真正面から考えることができる力を身につけることができました。

③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください

「後ろ向きな考えや思考の停止は何も生まない」と感じることができたことが一番大きな要因です。常に内省を行い「次はどうすれば良いのか」を考え続けることで、絶対にダメだ。と思っていたものに対しても答えが見えてくることがありました。その一つ一つの経験から、切り替えや思考し続ける能力を身につけることができ、自分自身のストレスも客観的に把握できるようになりました。